

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月20日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○新学習指導要領を踏まえ、キャリア教育を促す教育課程の編成を目指す。 ○アセスメントを踏まえた授業実践の取組を一層推進し、日々の授業改善に取り組む。	①キャリア教育をベースとした小中高一貫性のあるシラバスを作成する。 ②アセスメントを実施し、日々の授業に活かす。	①一貫性のあるシラバスの作成を校内研究のテーマとして、学部ごとに進める。 ②日々の授業でアセスメント結果を明示して授業を実施する。	①小中接続および中高接続を明示したシラバスを作成できたか。 ②アセスメント結果を明示した指導案を作成して授業実践できたか。	①校内研究で各学部のシラバスを作成し、学習内容を見直した。 ②アセスメントに基づいた「わかる授業」の実践を積み重ねることができた。	①キャリア教育の視点について共通認識をもって進める。 ②アセスメント結果を児童生徒自身が利用するなど、児童生徒や保護者と共有しながら進めることは次年度も継続する。	(保護者アンケート)「発達段階やライフキャリアを意識した教育実践」思うそう思う93%(学校運営協議会)学習指導要領の下位目標も検討してほしい。	①校内研究でシラバスを作成し、学習内容を見直し現状の学習内容を振り返ることができた。「新学習指導要領を踏まえたキャリア教育」と「教育課程の編成」の内容について共有されていなかったことが課題。 ②アセスメントの実施が積極的に進められているが「わかる授業」につながらなかった。	①「教科」の具体的な目標や指導内容を整理する。 ②アセスメントを踏まえ、題材・教材・進め方と児童生徒の様子との関連について考察する必要がある。また個別最適な学びに向けた実践を継続する。
2 幼児・児童・生徒 指導・支援	○一人ひとりの教育的にニーズに応じた指導・支援を組織的に行う。	①児童生徒が生き生きと活動し、自主性を重んじる集団授業作りを実践する。	①発達段階に応じた集団授業や行事等を実践していく。 ①学部ごとに集団での授業作りをテーマにした研修等を設定し実施する。	①授業参観や学習発表会等で、児童生徒が生き生きと主体的に取り組むことができたか。(児童生徒・保護者アンケート等実施)	①学習発表会実施後のアンケートでは、各学部で「とてもよかった」「感動した」などの好評価を得ることができた。また「集団授業」を意識した題材に取り組んだ。	①学習発表会については、次年度空調工事のため体育館が使用できず別形式で計画する。分教室は学年縦割りチームでの発表など、発展させて実施する。	(保護者アンケート)「個別教育計画の作成と活用」思うそう思う98%(学校運営協議会)3観点の資質能力を教職員が意識していく。授業を行うときに、児童生徒の言葉で言い換えてみる。	①学習発表会では児童生徒が自主的・主体的な集団活動を実践し、アンケートでは生き生きとしていた等の評価を受けた。また各学部が個別最適化された学びと、協同的な学びを意識して取り組むことができた。	①例えば、小・中・高で、日課、校内表示等の視覚支援カード等を統一するなど、個別最適な学びに向けた実践を継続する。
3 進路指導・支援	○児童・生徒一人ひとりの将来の生活の充実を目指し、自立と社会参加に向けた進路指導・支援を行う。	①自立と社会参加に向けた授業を通して、社会の一員として生きる力を伸ばす。 ②保護者対象進路研修会の充実を図り、進路に関する情報提供を丁寧に行う。	①自立をテーマとした授業を実践し、その成果を校内で共有する。 ②切れ目ない支援部会と協働して保護者対象進路研修会を実施する。	①実践報告を共有できたか。 ②進路研修会等を通して、保護者に丁寧な情報提供ができたか。(保護者アンケート実施)	①実践報告会を実施し、地域社会との関わり、卒業後の仕事や生活等を学部全体で共有できた。 ②みどり相談室&ミニ学習会を年9回実施。延べ362名の申込があり、進路についての情報を多面的に提供することができた。切れ目ない支援部会で、企業就労の研修会を実施した(地域の保護者約50	①今後も継続して自立して生きる力を育む教育に取り組む。 ②本校の保護者、地域の保護者ともに進路に関しては、かなり関心が高い。地域を含め、保護者対象の進路学習会を、テーマ等を工夫しつつ今後も実施する。	(保護者アンケート)「卒業後を見据えた進路学習」思うそう思う88%(学校運営協議会)先生方は家庭の話聞いてくれて、対応してくれている。	①社会生活での役割を意識した授業を進めることができた。高等部の実習の充実や保護者への情報提供など、改善が進んだ。 ②保護者対象の進路学習会は、多様なテーマと外部講師の活用で多くの参加者を得た。今後は参加の難しい保護者に対しての情報提供を工夫していく。	①福祉サービスや企業の情報について、保護者が小学部段階から理解できるよう情報提供をする。進路学習会などを地域の事業所や企業と協働で行い、保護者や生徒の理解を促す。 ②みどり相談室に参加できない保護者にも当

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月20日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
									日資料の配付をすすめるとともに、PP資料や動画をGoogle classroomにあげることを検討していく。
4 地域等との協働	○共生社会の実現に向け、障害のある子どもと障害のない子どもの相互理解や地域への理解を拡げるために、地域と連携し、開かれた教育活動を展開する。	①地域の各種団体と連携し、児童生徒が地域で活躍できる場面を増やす。 ②近隣小中学校、高等学校と連携し、交流や巡回相談等を通じて地域の障害理解を促進する。	①自治会や郵便局、ケアプラザ等の地域と連携した交流活動を実施する。 ②居住地交流や学校間交流、近隣小中学校や高等学校との交流を実施する。 ③巡回相談やHP等を通じて教材教具等も含めた本校の取組を地域に向けて発信し、近隣小中学校や高等学校との連携を深める。	①児童生徒が地域と連携する活動を実施できたか。 ②居住地交流や学校間交流を実施することができたか。 ③近隣小中学校や高等学校との連携をすることができたか。	①高等部の校内実習で新しい受注作業に取り組んだ。また東本郷体育祭では、10名の児童生徒が保護者と共に参加し、特体連陸上記録会へ6名が参加した。東本郷地域ケアプラザでの作品展示や郵便局の壁面掲示、高島屋ふれあい作品展に参加した。 ②小学部は東本郷小学校4年生と交流授業を実施、12月には作品交流も行った。中学部は城郷中学校個別支援学級との交流授業を実施した。 ③巡回相談は保育園1回、小学校7回、中学校3回実施した。巡回時の教材教具資料も紹介した。	①時期によっては受注作業が少ないこともあり、地域資源を開拓したい。また地域イベントの参加や作品展示の様子をホームページで広報し、今後の参加を促すよう取り組む。 ②双方の交流目的を今後も確認しながら進めていく。 ③教材・教具の見直しを行い、ホームページを通じて紹介を進めていく。	(保護者アンケート)「ボランティア導入や学びの場の拡充等」わからない25% 「配付物やホームページ等の情報発信」思う思う87% (学校運営協議会)地域への支援の広がりも意識して行っているので継続してほしい。	①東本郷小学校、城郷中学校との学校間交流や居住地交流を実施した。両校とも交流についてよい感想を持つことができた。また地域と連携した交流活動が増え、近隣のケアプラザでの作品展示を常設化することもできた。交流の目的を確認しつつ計画的に交流授業を進められるようにしていく。 ②巡回相談だけでなく、研修会や出前授業等による障害理解の促進を進める。	①学校だよりにホームページのリンクを貼るなど、地域での活動の様子が伝わりやすい工夫をする。 ②地域の保護者・教職員対象の研修会を実施するとともに、教材教具の貸し出しのシステムを整える。
5 学校管理 学校運営	○安全・安心な学校体制の確立に向けて、環境整備の推進と不祥事防止へ向けての取組をすすめる。 ○児童・生徒と向き合う時間を確保するために、働き方改革を推進し、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①校舎内外の機能改善を行うとともに、校内環境の整備を進める。 ②スクールバス内における安全に対する取り組みを強化する。 ③アフターコロナの健康安全管理の在り方や活動の取り組み方を明確にして実施する。	①教職員全員で校舎内外の環境整備を計画的に進める。 ①廃棄目的や廃棄基準・廃棄目標量を明確にして物品の整理廃棄を進める。 ②スクールバス内における安全上の対策を可視化する。 ③学校生活における場面ごとの感染症対策や衛生管理の具体的な実施方法をまとめる。	①児童生徒の安全に配慮した学校施設の改善ができたか。 ①物品の整理や廃棄ができたか。 ②誰が対応しても安全に遂行したか。 ③衛生管理の具体的な方法を全校で実施できたか。 ③保護者に必要な情報を周知して協働できたか。	①駐車区画線の整備が登下校時の車両の安全な誘導につながった。①学校防災活動マニュアルを更新し校内の防災体制を整備した。 ①廃棄作業を進めることができた。 ②バスの乗降チェック表を改善し共有した。またバスの増車に伴い新しいバスコースを設置し説明会を実施した。 ③換気の徹底と、発熱時の個別対応など基本的な対策を行うことで、感染症拡大を予防することができた。	①学校防災活動マニュアルを見直し、実際の避難行動に結びつく現実的なマニュアルに強化する。 ①より活用しやすいように教材等の整理・廃棄を行っていく。 ②バス係、担任、保護者と確認を密にして安全運行に努める。 ③調理実習なども増え、基本的な衛生管理や感染症対策は継続する。	(保護者アンケート)「防災体制の構築」わからない29%	①実効的な視点に立った防災訓練や防災体制の工夫・改善が必要。不要物品を廃棄・整理し、学習環境を改善することで効果的な教材の利用が進んだ。 ②児童生徒の配慮事項を保護者、担任、介助員と共有し、安全運行することができた。 ③プールや調理実習等の取り組み方法を確認し、様々な活動を再開することができた。	①大規模災害時に想定される停電や余震等に対応した避難訓練やシェイクアウト訓練を検討する。環境整備事業等の活用による継続的な機能改善を行う。 ②バス介助員打合せ等を利用し、配慮事項等を可視化して活用する。